

# 「人生で一番可愛い日」

—初稿—

2025/12/19

しのめ ののの

〈人物表〉

最上<sup>もがみ</sup>心愛<sup>ここあ</sup>

(23)

無職

最上心愛

(6)

幼少期の心愛

最上ゆあ

(23)

心愛の母親

1. 最上家のアパート・リビング（昼）

激しい雨音が、ボロアパートの一室に響いている。  
カーテンが閉め切られた暗い室内。

最上心愛（6）の泣きじゃくる声。

最上ゆあ（23）が喚きながら心愛を叩いている。

ゆあ 「こんなの要らねーんだよ。かわいこぶってるつもりかよ」

心愛 「ごめんなさい、ごめんなさい」

心愛の手には、オレンジのナガミヒナゲシ。

野花の毒素で、心愛の手が荒れている。

ゆあ 「それとも当てつけかよ。気持ちわりーんだよ」

泣きながら自身を庇う心愛の体には、痣や傷跡が複数ある。

ゆあ 「こっちはお前のせいで……お前さえいなければ」

心愛 「ごめんなさい、ママ、ゆるして」

ゆあ 「ママもう生きてけない。お前のせいだ」

心愛 「やだ、ママ、やだあ」

ゆあ 「やだじゃねえよ。じゃあお前が死ねよ」

ゆあ、心愛の首を絞める。

心愛、苦しみつつ泣き続ける。

心愛 「ごめんなさい、ママ、ごめんなさい……」

2. 最上家のアパート・寝室（夕）

雨は止んでいる。

心愛、ボロボロの薄い敷布団で縮こまるように眠っている。首元には絞められた跡。

カーテンの隙間から、夕日が差し込んでいる。

心愛、もぞもぞと起き出す。

3. 最上家のアパート・リビング（夕）

寝室から移動してきた心愛、リビングの扉を開ける。

心愛、凍りついたようにその場で立ちすくむ。

眼前に、首を吊ったゆあの足が揺れている。

薄いカーテン越しに差す夕日で、部屋がオレンジに染まっていく。

心愛、徐々に過呼吸になり、その場に崩れ落ちる。

#### 4. アパート・心愛のワンルーム（朝）

暗闇の中、突然可愛らしい曲が爆音で流れる。

（「可愛くてごめん」のような痛可愛い系のJPOP）

心愛（23）、はっと目を開けて飛び起きる。

白とピンクで統一された、お姫様系ロリータ趣味全開の部屋。

フリフリの遮光カーテンの隙間から日が差ししている。

心愛、暫くぼんやりしている。

少しして、スマホから流れる曲を止める。

スマホを触る指には、ボロボロのネイル。

心愛、ベッド脇のミニテーブルに目をやる。

5月の卓上カレンダー。母の日の欄が囲われている。

心愛、それをじっと見つめる。

突然、苛ついた様子でカレンダーを掴み、投げる。

#### 5. アパート・心愛のワンルーム（朝）

先ほどとは別の、似たような曲が爆音で流れている。

心愛、遮光カーテンを勢いよく開ける。

朝日が差し込んでくる。

心愛、わざとらしく笑顔を作る。

スタンド鏡の前へ座り、メイクを始める。

ロリータファッションに合うような、コテコテのド

ールメイク。慣れた手つきでどんどん進めていく。

メイクを終えると、クローゼットを開ける。

中には、大量のロリータワンピース。

色々と引っ張りだして、姿見の前で次々に試着する。

準備を終えた心愛、曲が流れるスマホを鞆に入れ、

ワイヤレスイヤホンをつける。

ふと、部屋のあるテーブルを見つめる。

様々な種類の錠剤が、大量に散らばっている。

心愛、死んだ目で雑にひと掴みし、少し見つめてから、ゴミ箱に捨てる。

錠剤を大方ゴミ箱に捨て、ワンルームを出る。

6. 街中（朝）

心愛、曲を聴きながら街中を歩いている。  
貼り付けたような笑顔。

7. ネイルサロン・外観（朝）

派手な外観のネイルサロン。

8. ネイルサロン・店内（朝）

心愛、イヤホンを片方だけ外しつつ、店内に入る。  
受付に女性スタッフが二人立っている。

心愛 「こんにちはあ」

スタッフ1「心愛ちゃん。久しぶり〜。え、久しぶりだよね？」

心愛 「えっそうかもー。なんか病んでた」

心愛、へらへらと笑う。

スタッフ2「え、わかるー。しゃーないよね」

スタッフ1「でも今日めっちゃ気合い入ってない？」

スタッフ2「思った。超かわいい」

心愛 「やば。今日ハイかも」

スタッフ1「なんかあんの？」

心愛 「んー、そう。大事な日かもー」

スタッフ2「いいねいいねー。じゃあアゲアゲな感じにしよう」

サロンスタッフ、手際よく施術の準備をする。

9. ネイルサロン・外（朝）

心愛、ネイルサロンから出てくる。

店員に手を振り、イヤホンをつけて歩き出す。

10. 花屋（昼）

心愛、花屋の店先へやって来る。

イヤホンを片方外しつつ、店員へ話しかける。

11. 花屋（昼）

心愛、レジ前でイヤホンを耳に突っ込む。  
オレンジの百合の花束を受け取り、店から出ていく。

12. 街中（昼）

心愛、花束を手に歩いている。  
どこか狂気的な笑顔。

13. 墓地（昼）

人気のない墓地。  
心愛、最上家と記された墓の前にやってくる。  
笑顔でゆっくり花束を掲げ、突然墓石に叩きつける。  
心愛 「死ね、死ねよ、てめえが死ね、クソが」  
心愛、叫びながら墓を蹴り、暴れる。  
心愛 「なにが当てつけだよ。テメーが当てつけだろ。死ねよマジで、ゴミカス」

14. 街中（昼）

髪の乱れた心愛、死んだ目で街中を歩いている。  
すれ違う人々が時折、それとなく心愛を避けたり、盗み見たりしている。

15. マンション群（昼）

心愛、ふらふらとマンション群の中に入っていく。

16. マンション・外階段（夕）

マンションの屋上へ繋がる外階段。  
心愛、ふらふらと上がっていく。  
日が傾き始めている。

17. マンション・屋上（夕）

階段から続く建付けの悪い扉。  
ガン、ガンと内側から何度か蹴られた音がし、扉が開く。心愛が出てくる。

心愛、屋上の手すりまでやって来て下を覗く。  
中庭のようなエリアになっており、誰も居ない。  
心愛、荷物をおろし、厚底のゴスロリブーツを脱ぐ。  
爆音の流れるイヤホンを外し、バッグに仕舞う。  
静けさが訪れる。

心愛、屋上の手すりを乗り越え、際に立つ。  
手すりに向き直り、手すりを掴んだまま目を閉じる。  
風の音だけが聞こえている。

心愛、清々しい表情で満足げに微笑む。  
目を閉じたまま、ゆっくり手を離して背中から投身  
しようとする。

ちょうどその時、遠くで少女の声が聞こえる。

少女の声「ねえママ、これ」

心愛、ハツとして手すりを掴み直す。  
下の様子を伺うと、中庭で幼い少女と母親が何か話  
している。

二人、その場にしゃがみ込む。

## 18. マンション・中庭（夕）

しゃがんだ少女と母親、道端に咲いたオレンジのナ  
ガミヒナゲシを見ている。

母親 「可愛いねえ」

## 19. マンション・屋上（夕）

中庭の母娘を見下ろす心愛。

心愛からは、母娘の会話の内容や花までは認識でき  
ない。

母娘、一向にその場から離れる様子がない。

心愛、少し苛ついた表情。

## 20. （回想）最上家のアパート・リビング（夕）

凍りついたようにその場で立ちすくむ、6歳の心愛。  
オレンジ色の部屋で揺れている、ゆあのだ。  
呼吸がどんどん荒くなっていく心愛。

21. マンション・中庭（夕）

心愛、ふと冷めた表情になる。

能面のような顔で、手すりの内側に戻る。

ブーツを履き、荷物を持つ。

気だるげにイヤホンを装着し、その場から去る。

22. マンション・中庭（夕）

しゃがみ込んでいた母娘、立ち上がる。

母親 「ねえ、夕日が綺麗だよ」

少女 「ほんとだ」

二人、空を仰ぎ、オレンジの夕焼けを見つめる。

視線の先にあるマンションの屋上には、誰も居ない。

おわり